

■今月の特選句

2018年2月

忙し忙しと数へ日の長電話

本門明男

人間は矛盾だらけやねえ。「超多忙ですと師走の長話」「スイーツは別腹に入れダイエット」「病院で会ってお元気ですか」など。まさに滑稽だね。

真夜中の突貫工事霜柱

八塚一青

自然の造形ではあるが、霜柱は芸術作品である。精緻と気品。あれだけの作品をつくるには金ヒマを要する。一晩で完成させるなんて凄い。

師走でふジョギングほどの忙しさ

堀川明子

師が走るから師走。しかし、そのスピードがどれくらいなのかは特定されぬまま、俳句は詠まれ続けてきた。「ジョギング」程度と分かり解決したね。

雪礫憎さいとしさ千個ほど

井口夏子

橋本多佳子に比肩の句。雪礫（ゆきつぶて）を座五にしてこんなふうにしてみた。なるほど、千個ということは、「憎さ五百個愛しさ五百個雪礫」。

アナログで生きて行きます冬籠

赤瀬川至安

「時代から取り残されてアナログ派」「今更にパソコンなどと尻込みす」「アナログは人に優しい手の温み」「アナログ爺とパソコンの孫冬籠」。

生きてきたかなめに俳句と塩鮭と

山本 賜

振り返って自分の人生の「かなめ」は何だろうかと思う。日課はラジオ体操、好物はお茶漬で、平凡に生き、時々、俳句が入選、なんてのがいいね。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

初場所やくぐもり届くふれ太鼓 ・・・太鼓の音はガチンコと言ひ	吉原瑞雲
去年今年老いては医師に従はず ・・・御子が医師ならどうするんです	飛田正勝
正月を写してみんな老けにけり ・・・若づくりしている人が浮く	泉 宗鶴
めでたさもこんがり焼けし雑煮餅 ・・・たとえ膨れた面していても	百千草
古妻に貫録負けする去年今年 ・・・妻は亭主を小僧子とし（去年今年）	青木輝子
流感の雰囲気感染注意報 ・・・病院に行き風邪が手土産	久我正明
自動ドア枯葉に先を越されけり ・・・軽い枯葉に軽く見られて	久松久子
嫁が君独居のをとこ悩ませる ・・・嫁が君とてオスかも知れんぞ	田中 勇
千両で不安万両買い足せり ・・・千円出して万両買ったか	西をさむ
初電話たがひにさぐる呆け具合 ・・・電話を切って今のは誰か	田村米生
人日のはやもつれ合ふ口と舌 ・・・人にもつれることはやめましよ	下嶋四万歩
着飾って上達は無し初句会 ・・・着付け教室こちらは上達	高田敏男
セーターの胸にふたつのジャンプ台 ・・・着地したのは好け平かもね	小林英昭

■今月の滑稽句

- | | |
|---|----------------------|
| 【佳作】 一度(ひとたび)は高上がりして桐一葉
煩惱を掻き回している冬至風呂
去年今年抽出しの中捨て切れぬ | 相原共良
相原共良
相原共良 |
| 【佳作】 ラブラブの期限切れして隙間風
着ぶくれてただ居る夫見切り品 | 青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 小岩らに橋杭岩が冬の夜話
冬波や弾くがごとく日矢落とす
冬遍路懐紙賜わる島の寺 | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 寒紅を引いて恐ろし以下内緒
腹満たしふくら雀の飛び立てず | 赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 義士会や刃(やいば)のきらと光る夜
討ち入りは師走八日と十四日 | 荒井良明
荒井良明 |
| 【佳作】 腹黒の彼奴の吐きし息白し | 荒井良明 |
| ひたむきにはたらきかへる冬の月 | 井口夏子 |
| 【佳作】 飽食の太き腹なる襦袢(どてら)かな | 井口夏子 |
| 【佳作】 人という珍獣御目見得パンダ館
着脹れのディオールの下はバーゲン品 | 池田亮二
池田亮二 |
| プレゼント孫はサンタにありがとう
年末ジャンボ抽選までの皮算用 | 石塚柚彩
石塚柚彩 |
| 【佳作】 初夢の悪夢上書きする二度寝 | 石塚柚彩 |
| 後ろ髪引くには薄き木の葉髪 | 泉 宗鶴 |
| 【佳作】 散髪代一人前なり木の葉髪 | 泉 宗鶴 |
| 那智大社熊の鼓動といふ土産
クリスマス高野坊主がやってきて | 伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 きれいだから食へと黴餅見せし母 | 伊藤浩睦 |
| 蒹蓄を煮しめてうまき初句会
生まれたて煩惱ひとつ今朝の春
あれあれとそれぞれ祓う初詣 | 伊藤洋二
伊藤洋二
伊藤洋二 |
| 【佳作】 青年は傷つきやすし青林檎
又おでん温故知新の三日かな | 稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 正直に生きて障子の破れかな | 稲沢進一 |

- | | |
|---|----------------------------|
| 嫁が君捕れず肩身の狭い猫
お正月鉢には水のお年玉 | 稲葉純子
稲葉純子
稲葉純子 |
| 【佳作】 元旦の計二日酔いにて持ち越され | |
| 【佳作】 口癖の「これが最後」と去年今年
イクメンの婿と息子やおでん酒 | 井野ひろみ
井野ひろみ |
| 【佳作】 ストレッチお雑煮餅にはかなはない
細胞に咬みつゐてくる北の風
願ひとはまとまらぬもの初詣 | 上山美穂
上山美穂
上山美穂 |
| 緋毛氈火桶もありぬ梅見茶屋 | 氏家頼一 |
| 【佳作】 晩年は思ひ出ばかり冬銀河
日本海漂流船にハングル語 | 氏家頼一
氏家頼一 |
| お齒黒の美人黒豆を食べたのか
小豆粥ふうふと舌を焼いてみる | 梅岡菊子
梅岡菊子
梅岡菊子 |
| 【佳作】 人生の着地不確か牡丹雪 | |
| 静かに更ける年の瀬の読み聞かせ
ローカルの空港賑はふ冬休み | 梅野光子
梅野光子
梅野光子 |
| 【佳作】 粉雪のダンスのクルリクルリかな | |
| 【佳作】 能書の多き卵も寒のうち
熟睡して何ぞ不足の女正月
生き過ぎと言ひしが所望寒の水 | 越前春生
越前春生
越前春生 |
| ダンディーを貫き逝くや十二月
白菜に転倒見られ店の先 | 太田史彩
太田史彩
太田史彩 |
| 【佳作】 マスクして今日は鼻高美人かな | |
| 初日の出ひらめく一句清々し
初日の出四方の煌々動き出す | 小笠原満喜恵
小笠原満喜恵
小笠原満喜恵 |
| 【佳作】 けちん坊の財布ゆるます福袋 | |
| 金が敵女が敵十二月
古日記どこ捲っても以下同文 | 小川鈍太
小川鈍太
小川鈍太 |
| 【佳作】 三百六十度吾に恵方の死角なし | |
| 歳なりの計もちよつぱり屠蘇を酌む
初仕事趣味の将棋で食へるなら | 加川すすむ
加川すすむ
加川すすむ |
| 【佳作】 不覚なる舌の火傷よ七日粥 | |
| 【佳作】 灯台をもぎ取り爆弾低気圧
野良猫が声かけ通る日向ぼこ | 加藤澄子
加藤澄子 |

- ロボットに支配されてる寒さかな
【佳作】しわしわの身と柚子浮かす柚子湯なり
年明けて見つかった券期限切れ
川島智子
川島智子
川島智子
- 焼鳥の雲に包まれ忘年会
【佳作】ほんのりと尻の熟れたる蜜柑かな
久我正明
久我正明
- 【佳作】白黒はつけずここまで去年今年
更新のボタンばかりよ去年今年
極月の車内へ三角印より
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子
- 【佳作】焼き餅の膨れっ面の目出度けれ
短冊の鮭腸(はらわた)見せぬかな
足裏をくすぐられつつ麦を踏む
桑田愛子
桑田愛子
桑田愛子
- 道ならぬ恋のにはひのインバネス
【佳作】紙懐炉あらぬところに行きたがる
小林英昭
小林英昭
- 老犬のつまづく段差凍てし道
庭師来るまでに楓の散り果てし
【佳作】伊勢湾の水持ち上げし初日かな
佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子
- 心地良き寝起きの悪き布団かな
【佳作】年礼やぶつぶつ交換してゐたる
下嶋四万歩
下嶋四万歩
- 特賞の菊の余生は幼稚園
【佳作】離れない軍手の好きなみのこづち
初湯浴び妻の姿態の有りのまま
壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次
- 目一杯リード伸ばして初詣
奥の手も出尽くしたるや懐手
【佳作】持ち上げる度に目移り福袋
白井道義
白井道義
白井道義
- 【佳作】客寄せのだみ声響く年の市
蛸五匹足四十本の歳暮かな
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
- 太鼓判押されて来たか元旦の太陽
なんのなんの手荒れのクリーム塗ってます
【佳作】冬激突叱る人叱られる人それぞれ生きる
鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝
- 御降や弟兄の服を着る
【佳作】三毛の声隠れて笑う嫁が君
高田敏男
高田敏男

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 初夢や一家に一台AIロボ
三の酉熊手も人手も手一杯
綿虫の飛ぶ枯尾花かもしれぬ | 高橋きのこ
高橋きのこ
高橋きのこ |
| 【佳作】 | 新しい年へ届けと除夜の鐘
気がかりも一緒に煮込み鰯大根
ゴスペルの響くや聖夜の街角に | 高橋ユミ子
高橋ユミ子
高橋ユミ子 |
| 【佳作】 | 冬帝に逆らはずして生かさるる
夜半の風鶴は涙を流しをり | 田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 | 胃切除の夫に収まる雑煮餅
歳晩の湯船に二人ゆるゆると
痛風は自己責任で忘年会 | 田中早苗
田中早苗
田中早苗 |
| 【佳作】 | かじけ猫竈あきらめボンネット
猫の手をさがしてをりぬ年用意 | 田村米生
田村米生 |
| 【佳作】 | 地に映るスマートな影冬入日
意気込みて初売巡り息の切れ
初新聞必要なのはテレビ欄 | 月城花風
月城花風
月城花風 |
| 【佳作】 | スピッツとチワワと共に御慶述ぶ
老いたれば監視の下で餅を食う
初売りに元陸上部張り切りぬ | 津田このみ
津田このみ
津田このみ |
| 【佳作】 | しゃくれども椰子乳取れずべらぼうめ
肉饅やおっぱいのごと汗をかき
AIにお前は要らんと虎落笛 | 土屋泰山
土屋泰山
土屋泰山 |
| 【佳作】 | 戦なき世にも人逝くお正月
父が先づ酔ふ成人式の酒 | 飛田正勝
飛田正勝 |
| 【佳作】 | ゆれてますメガネがぼとり日向ぼこ
雑炊を俺のグルメに認定す
ヒレ酒の元をただせば二級酒 | 中井 勇
中井 勇
中井 勇 |
| 【佳作】 | 後世か枯野か行先知れずバス発車
正真正銘後期高齢初鏡
初夢の何ともはやのくだらなさ | 新島里子
新島里子
新島里子 |
| 【佳作】 | 私鉄乗り眠気誘はれ冬温し
カレンダー啜るココアや日を数ふ
キラ星のお道具並ぶ口切茶 | 西岡幸子
西岡幸子
西岡幸子 |

- | | |
|--|----------------------|
| 【佳作】 初場所や思いも寄らぬ差し違え
禅寺の池の寒鯉身じろがず | 西をさむ
西をさむ |
| 年明ける我が還暦の年明ける | 花岡直樹 |
| 【佳作】 野ではなくスーパー産の七日粥
初雪とビール泡で競いをり | 花岡直樹
花岡直樹 |
| 【佳作】 胎(はら)の子の蹴とばすといふ初便り
除夜の鐘OKグーグルもう寝るよ
散歩する四日の犬の無表情 | 原田 曄
原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 己が脳に自信失ひ日記買ふ
ありあわせを七種粥とうそぶきぬ | 久松久子
久松久子 |
| 元朝やこれより万事初ものに
真実は時に恐ろし初鏡 | 日根野聖子
日根野聖子 |
| 【佳作】 本年の目標マンネリ新年会 | 日根野聖子 |
| 中吉や年の初めの安定剤
めでたさの度合深まる齡重ね | 廣田弘子
廣田弘子 |
| 【佳作】 初夢や一富士二鷹三諭吉 | 廣田弘子 |
| アメ横とシャンシャン人の急ぐ暮 | 細川岩男 |
| 【佳作】 急く足ももつれもたつく凍る朝
御気楽に我れもパンダも去年今年 | 細川岩男
細川岩男 |
| 通過するだけの諭吉や年の暮 | 堀川明子 |
| 【佳作】 着膨れて脚の細さを褒められる | 堀川明子 |
| 薄くなつても同じ料金木の葉髪 | 本門明男 |
| 【佳作】 大歳の手付かずの日を前にして | 本門明男 |
| 湯浴みに届く除夜の鐘のビブラート | 松井寿子 |
| 【佳作】 去年今年仕事をこなし倒れこむ
残雪の木道たうとう踏み外す | 松井寿子
松井寿子 |
| 初夢の艶夢とはなりきれぬまま
餅ふくれあなたの白い肉つまむ | 松井まさし
松井まさし |
| 【佳作】 健診の日は霜焼の手を隠す | 松井まさし |
| お財布の中から悲鳴年用意
ラジオ体操しつつ日の出待つ冬山 | 南とんぼ
南とんぼ |
| 【佳作】 香り良き類して雪国の児等あそぶ | 南とんぼ |

飾壳尻を炙りて吹くラッパ 二燭光ほどの夢みる明の春	椋本望生 椋本望生 椋本望生
【佳作】鏡餅割るやいつしか子沢山	
【佳作】ぶっち切るキタサンブラック冬の蝶 趣味人の大往生や枯蓮 赤ら顔人参好きの子沢山	村松道夫 村松道夫 村松道夫
【佳作】躓きは人生の糧龍の玉 玄関に福餅供へ年の夜	百千草 百千草
【佳作】初夢を三択してる不眠症 暴落の予兆なしやお年玉 おみくじの大吉たたみ初詣	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
林檎手にして引力のご説明 財布紛失初御籤は大吉で	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】お日様のご機嫌次第日向ぼこ	
年酒の座一日だけの大家族 消し忘らるる妻の小言よ去年今年	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】初夢や偶然一句できにけり	
【佳作】凍風や鳥は羽毛を離さない 境内の豆撒き鳩が乱舞する	八塚一青 八塚一青
わが妻の鵜匠めきたるクリスマス 凍滝の水のしたたる艶姿(あですがた)	柳 紅生 柳 紅生 柳 紅生
【佳作】重力に株価の伸びる笑初	
【佳作】福引の一つ一つの見守られ 出世とは無縁に生きて絵双六 手切れ金野暮は言わない猫の恋	柳村光寛 柳村光寛 柳村光寛
行く人の足を停めたる年の市 靴下に入らぬかもと聖夜欲	山下正純 山下正純 山下正純
【佳作】文旦の手掴み可不可ランク分け	
【佳作】寝正月小咄ひとつ思ひつく 異端児や春の畑のブロッコリー	山本 賜 山本 賜
子の手前負けさせそこね達磨市	横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎
【佳作】三が日過ぎて未来がしばみゆく 新日記五日目晴れの記述のみ	